

平成27年1月30日
海事局安全政策課

係船索に関するヒアリング結果について

本年2回実施した「繫離船作業に係る安全問題検討会」の議事概要等について、公表された資料をもとに説明。日本船主協会からの情報は以下のとおり。

- ー日本船主の船も係船索が切れていない訳ではない。たまたま日本の港で破断事故が起きているだけで、海外の港でたまに破断する事例あり。
- ー日本船主の船での係船索の整備については、過去の事故の経験を活かして、ロープの状況を適宜監視している。
- ー通常、5年でロープは交換。1ヶ月に1度目視検査を各船で実施。
- ー1カ所に摩耗（疲労）が集中することがないようにロープの前後を入れ替える等の措置を実施。
- ー日本船主の外航船では、海外のロープメーカーからの購入が主流。メーカーによる耐用年数の表示等はないことが多い。
- ー海外船主の船は、航海士が作業に従事する等（通常は船橋で指示するはず）行っている場合もあり、見張りや的確な指示が出されていない場合もある。
- ーパイロットが乗っている場合は、ロープ出し等の指示を彼らが行うため、問題ない。
- ー事故の事例を見ると、操船（着岸や離岸）技術が低いため、事故が起きているように見える。ロープに頼って離着岸しているよう。船長の技術不足か。
- ーロープの種類については、固いものがよいや柔らかいものがよい等のことは一概には言えない。港の特性によって異なる。